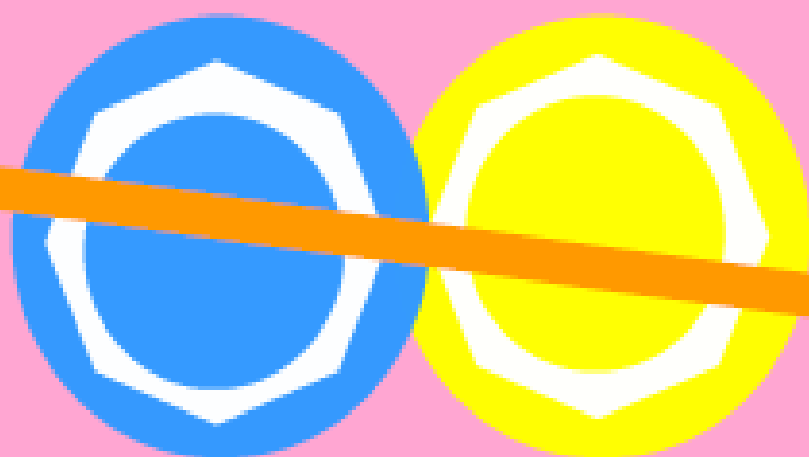


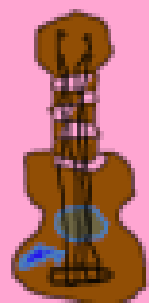
# 【コント集】

## 弦楽器イルカの

## 超お蔵出し



弦楽器イルカ



## 女神の泉

---

登場人物：兄・妹・女神・男1（普通）・男2（ノリノリ）・男3（木こり）

※（ ）の三人は一人が演じてても可。

中央に大きな泉のある山奥の風景。のどかな大自然の感じ。

上手から、大きなリュックを背負い、ハイキング風の兄妹登場。

子どものように、メルヘンチックないでたち。

妹 ついに来たね、お兄ちゃん。

兄 着いたよ、妹。

妹 …あれが噂の泉だね。

兄 落としたものを女神がみんな、金や銀に替えてくれるって噂の泉だ。

妹 何を落とそうね。やっぱり大きなものがいいね。

兄 早まっちゃいけないよ。とりあえずもう一度、童話を読んで復習しよう。

清纯ぶった女神に、この内なる欲望を見透かされないようにね。

妹 さすが策士のお兄ちゃん。どす黒い腹を見抜かれるワケにはいかないモンね。あ、見て！

下手から、泉に向かって歩いてくる男。あまりにも普通の私服を着て歩いてくる。

右手で鼻クソをほじっている。

妹 鼻クソをほじってるよ。

兄 ほじるねえ、右に左に、縦横無尽だね。

二人 あっ！

男、右手の鼻クソをピンとはじき、それが泉の中に入るのを、兄妹の目線が追う。

そのとき、巨大な水音。泉の中から、白い衣装を着て、バリバリの笑顔を絶やさぬ女神登場。

女神 オマエが落としたのは、この金の鼻クソですか？それともこの銀の鼻クソですか？

鼻クソをはじいたポーズのまま、眉間にしわを寄せ、怪訝そうな表情でじっと女神を見つめる男。

長い沈黙。突然。

男 いや、いいです。

クルリときびすを返し、去って行く男。張りついた笑顔のまま立ち尽くす女神。

妹 断ったねえ、お兄ちゃん。  
兄 断り尽くしたよ。あいまいな日本人としては、ぜひとも見習いたい  
「ノー」だったね。

巨大な水音と共に沈んでいく女神。

妹 あ、女神が沈んでいくよ。でも、あの金や銀や普通の鼻クソたちは、結局  
どこへ行くんだろうね。  
兄 真実はあの笑顔の裏ってワケだ。

ちょっと、間。

兄 では、復習をはじめようか、妹。どす黒い野望を秘めてね。  
妹 そうだね、お兄ちゃん。どす黒い野望をひた隠して。あ、見て、また誰か  
くるよ。

下手から、泉に向かって歩いてくる巨大なヘッドフォンをした男。ノリノリで  
踊っている。

妹 なにやらノリノリで踊ってるねえ。  
兄 踊るねえ、右に左に、縦横無尽だね。  
二人 あっ。

男、ノリノリで踊ったまま、足をとられて泉に落下。そのとき、巨大な水音。  
泉の中から、白い衣装を着て、バリバリの笑顔を絶やさぬ女神登場。両手には巨大な  
金箔と銀箔の、なにやら微妙な塊を持っている。

女神 オマエが落としたのは、この金のオマエですか？それともこの銀の  
オマエですか？

女神、じっと笑顔を絶やさぬまま。かなりの、間。そして、巨大な水音が響き、女神が  
沈んでいく。

妹 すごい間だったね、お兄ちゃん。  
兄 長くて意味深な間だったよ。金のオマエも銀のオマエも、結局受け取る  
オマエがいなかったからね。  
妹 でも、あの金や銀や普通のオマエたちは、結局どこへ行くんだろうね。  
兄 真実はあの笑顔の裏ってワケだ。

ちょっと、間。

兄 さて、復習の調子はどうだい、妹。  
妹 お兄ちゃん。これってイソップとアンデルセンとグリム。いったいどれの話だっけ？  
兄 う～ん。とりあえず残酷なほうでいいよ。後の人格形成に微妙な歪みが生じるようにね。  
妹 そっか。あ、見て。また人がくるよ、お兄ちゃん。

下手から、泉に向かって歩いてくる男。肩には巨大なオノをかけ、でっかいブーツを履き、頭には派手なバンダナを巻き、そこから鳥の羽が伸びている。

妹 見て。手には立派なオノ。(木こり、ゆっくりオノを掲げ観客に見せるポーズ)  
足には立派な編上げブーツ。(片足を観客に向かって掲げるポーズ)  
しかも頭には立派なバンダナを巻いて鳥の羽もあしらい(額をさりげなく指さす)大胆かつワイルドな着こなしで木こりらしさを演出しているね。  
兄 まさに天然の木こりだ。もはや絶滅寸前と言われてたのに、まだこんな大物が残ってるなんて。大自然の神秘だね。

木こり、泉の前に立ち、眼前にオノを掲げ、真剣な表情のままじっと立ち尽くしている。だが、何を思ったか無表情のまま、掲げたオノをこともなげに手放す。落下して泉に落ちる音。木こり、きびすを返し立ち去ろうとするが、巨大な水音に気づき足を止める。泉の中から、白い衣装を着て、バリバリの笑顔を絶やさぬ女神登場。両手に金のオノと銀のオノを持っている。

女神 オマエが落としたのは、この金のオノですか？それともこの銀のオノですか？

ちょっと、間。

木こり いや。  
女神 では、オマエが落としたのは、この普通のオノですか？  
木こり …いや。

かなりの、間。

木こり オレが落としたのは命だ。普通のオノではない。命であるオノを捨て、山を降りる覚悟を決めたオレに、オマエのそれはいったいなんのつもりだ？  
…………消えろ。

木こり、去る。ちょっと、間。巨大な水音とともに、女神沈む。

妹 カッコよかったねえ、お兄ちゃん。

兄 カッコいいな、妹。まさに正真正銘の、元・木こりだ。

妹 でも、あの金や銀や普通のオノたちは、結局どこへ行くんだらうね。

兄 真実はあの笑顔の裏ってワケだ。とりあえず今ごろ、泉の奥深くほの暗い水の底では、たぶん女神が三本のオノを叩き折ってるに違いないね。

妹 日常に潜むバイオレンスだね。ところでお兄ちゃん。私たちはいったい何を落とそうか。

兄 僕も今それを悩みぬいてたところさ。本当は、金の妹がほしいなあと  
思ってたんだけど。

妹 私も。金のお兄ちゃんがほしいと思ってたんだけど。

(二人、目を合わせる)

二人 うふふ、あはは。

(兄妹、互いを軽くこずく。だんだんエスカレート。無表情で殴り合い)

兄 あ、金歯が抜けた。(笑いながら)

妹 下の歯は遠くに投げればいいって言うよ。

兄 そっか。じゃ。

ぽーい。ぽちゃん。二人が見守るなか、巨大な水音。泉の中から、白い衣装を着て、バリバリの笑顔を絶やさぬ女神登場。

女神 オマエが落としたのは、この金歯ですか？それともこの銀歯ですか？

兄 金歯です。

女神 ……………はい。

女神、金歯を兄に手渡す。巨大な水音とともに、女神沈む。

妹 いい人だったね、女神。

兄 いい人だな。でも、いらん世話だな。

妹 いらん手間だね。

兄 さて、じゃ女神も飽きたし、今度は浜辺に亀でも助けに行こうか。

妹 そうね。小さいほうのつづらを選ぶんだっけ？

兄 うん。桜の木を切ったらすぐに謝ればいいんだよ。

二人 うふふ、あははは。

終わり。

## 医者と患者1「頭にオノが」

---

登場人物：医者 患者

診察室。中央に白衣を来た医者と患者が向かい合っている。

患者の頭にはでっかいオノが刺さっている。二人、神妙な雰囲気。

患者 …あの。やっぱ、これ、オノ、ですかね？

医者 いやあ、…ですかねえ？

患者 でもやっぱ、見た目刺さってる感じとかありません？

医者 ああ、どうでしょう。ねえ？

患者 先生、はっきり言ってください。オレ、もう覚悟できてますから。

なんか見た目でも、診断できませんか？

医者 申し訳ありませんが、もう少し詳しく調べてみないことには、まだ  
なんとも……

患者 そうですか。…いや、そうかやっぱり、実は、オレもまだ決まったワケ  
じゃないって思ってたんですよ、信じてたっていうか。あ、すいません  
何度も念押しちゃって、でも、信じていいんですよ。

医者 そうですね。オノじゃない可能性があるってことも、今はまだ、それ  
なりに言えるような段階でもありますから。

患者 そうですか。じゃ、これたとえば、実はオノじゃなかったら、いったい  
なんですかねえ？

医者 オノじゃなかったら、ですか？はあ、オノ、じゃなかったら、う～ん  
考えたことなかったな。難しいなあ……

患者 でもさっき先生がオノじゃないかもって言ったんじゃないですか。実は  
これによく似た症状の病気とかあるんじゃないですか？

医者 (即答) いや、ないですね。病気はないです。

患者 ないの。じゃケガでいいですよ。うん、なんかこう、頭部に熱く突き  
刺さる重み？微妙に感じないワケじゃないんで。ええだから、ちょっと  
したケガってことでもいいですよ。これ、なんのケガかわかりませんか？

医者 う～ん、ケガですか？っていうか、もしかしたら生えたのかもしれま  
せんね。

患者 生えた、って言うとは？

医者 今ちょっと軽く思いついただけですけど、刺さったのではなく、頭の内  
から生えて来た、という可能性はありますよね？

患者 あります？それあります？やっぱ？

医者 ええ、可能性は捨てきれませんね。

患者 あ、やっぱそう、捨て切れないんだ。いやね、オレも朝鏡で見たとき、  
最初ね、なんか生えてんのかなあって思ったんですよ。いや、オレ視力  
悪いんで、なんかちょんまげみたいの？伸びてんなあとか思って、

そういう時代だっけな今、とか思いまして。センゴク？

センゴクの時代？

医者 的いらないですね。

患者 (無視して) そう、ちょんまげですよ。ちょうど前に突き出てる感じとか、つまりあの、カブキモノのちょんまげって感じですかね。ちょいハイカラっていうか、オレってばカブイてるぜって感じしますよね。

医者 確かに、カブキモノって感じはありますね、それで街とか歩いたら、すごく、こう。

患者 カブイてるでしょ？ですよ、だって……

医者 (食い気味で) デカすぎますよね。

患者 そう、デカすぎるんですよ、不自然に！だから、朝急いでコンタクト入れてカレンダーみたら、やっぱ今2011年で、じゃこれもしかしたらオレってば関取だったけなとか思いまして。

医者 ああ、そっち？

患者 そっち方面やっぱ捨てきれない？よかったあ、安心しました。オレが関取だったら、不自然じゃないなと思って。断髪式するまではマゲを結ったままですよ、関取は。だったらオレまだ、人生の中で断髪式した覚えないですし。これ可能性十分ありますね。あとほら、たまに関取も血流しますよね、頭部から。

医者 まあたまに、立合いでぶちかましのとき、頭部と頭部がぶつかれば。たまに。

患者 いや、たまにですよもちろん。オレだって別に毎日こんな大量に頭部から出血してるワケじゃないし、ホント偶然？だって、いっつもこんなだったらヤバイ人じゃないですかオレ、うん、致命傷っていうか？パッと見……

医者 (食い気味で) 死体ですよ。

患者 ひどいそれ、死体はひどいな。せめて死にかけとかね、ちゃんと生きてるのに。

医者 いや、すみません、軽率でした。言葉がすぎました。

患者 まあ、気にしてませんけど。今の時代、火のないところにも簡単に煙上がって炎上しますしね。

医者 そうですよ。

患者 火って、燃える火じゃなくて、是か非かの非でもそうですよ。つまり、自分が非人道的な行いをしてなくても、ただ他人にやつあたりされたとか勝手に拉致されたとかのせいで、いつのまに頭にオノが刺さっちゃうってこと、たまにありますよね？

医者 ないですね。

患者 ないですけど。ないですよ、確かに……

医者 あと私、実はさっきもう一つ別の可能性あるかなとか思ったんですけど、でも悪ノリかとも思ってやめたんですけど。

患者 いやだな早く言ってください、なんですか？

医者 いや、それって昔流行ったあのヘヤーって感じしません？  
患者 あのヘヤー、って？  
医者 ちょうど日本でワールドカップやったころ、なんだか、イギリスかどっかの、ちょうどそんな感じのヘヤー選手いたじゃないですか、色男の。んでみんな若者とか真似して。ド忘れしたな、なんでしたっけ、なんとかヘヤーって……

患者 …ベッカム、ヘヤーですか？  
医者 そう、それです、ちょうどそんな感じに……  
患者 見えませんね。  
医者 え？  
患者 ありえないですねそれは。絶対違います、似てませんし。大体僕、野球のが好きですし。

医者 あ、そうですか？  
患者 先生あれですか、なんかふざけた気持ちありません？  
医者 いや、そんなまさか。  
患者 人の頭頂部で軽くおちゃらけようなんて考えませんでした？  
医者 そんな……  
患者 絶対、少しも？ほんの少しくらい、ほんのちょっとだけでも、そう思いませんでした？ねえ先生、患者がもっとも知りたいことをぼやかさずははっきりと伝える、それがインフォームドコンセントってものでしょう？

医者 いや……  
患者 思いました？何割くらい？9分9厘遊ぶつもりでした？  
医者 まさかそんなないですよ。あっても、せいぜい2割5分くらいですよ。  
患者 2割5分も！  
医者 いや、あったらって話で……  
患者 人の頭で2割5分も遊ぶ気だったんだ。2割5分ったら、昔メジャーにいた頃の新庄の打率くらいじゃないですか？ってことは、さらにチャンスに強いってこと？

医者 チャンスってどんな場面？  
患者 でも言ったでしょ、2割5分って。人の頭部にランナーたまるほど燃えるって。ん、…燃える？燃やす？  
医者 落ち着いて。もう何言ってるか、完全にわかりませんよ。  
患者 でもわかってるんでしょ？  
医者 え？  
患者 これがオノだって、あなた最初からわかってたんじゃないですか！  
医者 わかりませんよ、っていうか、まだそうと決まったワケじゃないって……

患者 オノだろこれ、認めろよ。もうたくさんだ！こんなもの！  
医者 あ、危ない！  
患者 おりゃー！



オノ抜けると同時に。おぎゃあ、おぎゃあ、おぎゃあ、おぎゃあ。

医者 もしかして、桃太郎？

頭、光りだす。

患者 いや、かぐや姫？

医者 あ、これか。

医者、携帯取り出す。

患者 え、着信？赤子？

医者 はい。…急患ですね、わかりました。え、頭部に？

患者 もしやオノですか！他にも？やっぱこれ、流行り病ですか？

医者 ……切り株が生えた、女性？

患者 えー!? 運命の人、発見！

医者 オノも刺さってる？

患者 オノまで？既に？失恋だー。

医者 （電話切る）大丈夫、次の恋が見つかりますよ。オノも抜けたし。

患者 あれ、ホントだ！

医者 誰の心にだって、オノの一本や二本、刺さっているんですから。

患者 棘みたいに？

医者 棘みたいに、です。

患者 心じゃなくて、頭にも？

医者 いや、頭に刺さってたら即死ですよ。

患者 じゃ、僕は？

医者 手遅れですね。

患者 先に言ってー！

終わり。

登場人物：男 女

明転。

女 ねえ、あたしのために死んで。

男 あ、いいよ。死のう死のう。なにがいい？毒？沈没事故？

女 んじゃ、とりあえず沈没事故。

男 あ、オッケー。どぼーん。

女 死なないで！お願い、あたしも一緒に死ぬわ！

男 あ、ダメダメ、そんなん。死ぬなっちゅうの。生きろっちゅうの。

女 …ねえ。

男 だって、オレせっかく死ぬんだから、意味ないじゃんそっちまで死んだら。だいじょぶ、キミはだいじょぶだから、うん。

女 ねえ！もっとカッコよく死んで！

男 イヤだねそんなの。だって結果は一緒じゃん、とにかく死んでるんだから。そこらへんわかれっちゅうの。

女 いやよ、だってカッコよく死んでくれなきゃ、友達に自慢できないモン。

男 すんなよそんなん。カッコわりいよ。一生胸の小箱に一人しまっとけよ。

女 じゃあもっとカッコよく死んで。

男 イヤだっちゅうの。いいから黙って死なせろっちゅうの。生きろ、君は、うん。税金とか、エネエチケエとか払ってけっちゅうの。

女 イヤよそんなの。そんなんで死なれても、ただ面倒なだけじゃん。

あたしはこう、死んだ後も一生他の恋愛しなくてすむような、素敵な思い出作りがしたいだけなの！

男 そんなん他の男に頼めっちゅうの。かけえじゃん、キミのために死んじゃうんだぜ？िकासिकासキミिकासとか言いながら。そういえばあのときのサンドイッチ、ジャムにカビ生えてたねとか。

女 イヤ！その話はしないで、もう。

男 でもなかなかうまかったよ、あれ。

女 ホント？

男 ホントホント。キュウリのヤツもうまかったぜ。キュウリだけにしては、よくできてた、うん。

女 ホント？…んじゃまあ、いいよ。死んでも（甘えて）。

男 だろ？だからオレにまかすとけっちゅうの。ま、親御さんと仲良くして。よろしく言っとけっちゅうの。

女 うん。そっちのお父さんとお母さんは？

男 あ、だいじょぶだいじょぶ。オレ保険入ってるし。育て方、自由なほうだし。

女 そう、いいご両親なんだね。んじゃ！  
男 お、そいじゃ。ぶくぶくぶく……  
女 向こうでも元気でねええ！

女、ひとしきり手を振った後、足下の雑誌を寝転んで読みはじめる。  
ちょっと、間。

男 ぶくぶくぶはあ、いやあ死んだ死んだ。死ぬほど苦しかったよ。  
女 あ、お帰り、思ったより早かったね。  
男 向こうの時間はこっちよりあつと言う間だからね。これでもう三年は寿命縮んだよ。  
女 そっか、苦労したんだ。ねえ、早速なんだけどまた死んでくれる？ホラ、今月号の雑誌に書いてあるの。今年の彼氏は、死ぬメンで決まりって！  
男 死ぬメン？  
女 彼女のために死ぬイケメン！ね、きれいな夜景の見える死に場所ベスト10、今度はここで死んでみて！  
男 ヘンなモン流行らすなよったく、これだから資本主義はな。で、次は毒？交通事故？  
女 う～ん。じゃ、毒で。  
男 オッケー。じゃ。

男、右手のピンをグイッと飲み干す。パタンと倒れる。

女 おお、なんということでしょうロミオ、ついに本物の毒を飲んでしまったのね。ああ、アナタはどうしてロミオなの？  
男 いや、さとしだよ。りっしんべんに吾でさとし。  
女 いいのよなんでも。とにかく、今スグ私もあとを追うわ！  
男 いや、ござとへんに吾かな。どっちだったっけ？  
女 どっちでもいいの！  
男 いくないよオレの名前だもん。でもいいよんじゃ、とにかくやめとけて。オレ飲んだの実は毒じゃないし。  
女 え、違うの？  
男 だってそういう話でしょあれ？男が毒飲んだんだと勘違いして女がニセの毒のんで、しばらくして男が目覚めて今度は女が毒飲んだんだと勘違いしてニセの毒のんで、でまた女が目覚めてまた男が毒飲んだんだと勘違いしてニセの毒のんで、ってえんえんループする話でしょ？  
女 わかんないあたし、学ないから。でもそれコントっぽくない？しかもどっちか言えばドリフ系？  
男 だって昔から語り継がれる話だぜ、やっぱベタで面白くなきゃ飽きられんじゃん。いいよ、とにかくこれ飲んで。  
女 いやよ。私はあなたに死んでほしいの！

男 ヒロインがそんな固いこと言うなよ。一応このクスリだって1年くらいはあっちいくクスリだよ。寿命だってそんなくらい縮まんだから、よしとしなきゃ。贅沢は良子さん！

女 そっか。んじゃ、ゴクリ。(ぱたん、倒れる)

男 あ、良子、おまえはどうして良子なんだ。ゴクリ。(ぱたん)

女 ロミオ、アナタはどうしてロミオなの。ゴクリ。(ぱたん)

男 お、良子。どうして良子？ゴクリ。(ぱたん)

女 ロミオ、アナタはどうしてロミオなの。ゴクリ。(ぱたん)

男 良子？ゴクリ。(ぱたん)

女 ロミオ、アナタはどうしてロミオなの。ゴクリ。(ぱたん)

男 ?ゴクリ。(ぱたん)

女 ロミオ、アナタはどうして……ねえ、これ飽きた。違うのにしようよ。

男 なんだよ面白くなんのこれからじゃん。30回越したあたりから役者と観客の我慢比べじゃん。劇場に漂う深い悲しみと観客の怒り、延々と寄せては返す観客の呪いが演劇を新たな地平へと羽ばたかせんじゃん。

女 わかんないあたし、学ないから。でもいやだよ。あたしが客だったら今すぐ席立って受付で金返してもらおうよ絶対。たとえ100円だろうとびた一文払うもんかってステージまで聞こえるでっかい声で叫んでやるよ。

通路から声。「早く返せ！たとえ100円だろうとびた一文払うもんか！」

女 ホラ、違うのにしようよ！

男 んじゃなに。今度は。

女 ってか私、今のクスリ飲んだらなんだか眠くなってきた。ねえ、アナタ私が寝てる間にテキトーに死んでてよ。

男 ひでえなそれ。猫とかじゃないんだから。

女 猫だって人が見てないところで死ぬよ。よく考えたらそのほうがカッコイイじゃん。あとくされもないし。手軽だし。早いし。

男 ファーストフードじゃんそれ。オレの死とバーガーが並列じゃん。スローフード流行りの昨今、ワンコインじゃんオレの命。

女、ニコッ。

男 その笑顔に弱いねオレ。スマイルは無料ってか。ご一緒にポテトもってか。キミも罪な女だあ。

女 (店員風に)ありがとうございます！んじゃ、あたし寝るから。いい加減くつろいだらそこらでテキトーに死んできてね。ちゃんと死体は燃やすゴミと燃やさないゴミにわけるとだよ。大家さんうるさいんだから。どうせ後であたしが怒られるんだよ。

男 はいよ～。

女 じゃ、お休み。ねえ……

男 なに？

間。

女 …大好きだよ！

男 （敬礼して）逝ってきまーす！

突如、軍歌のBGM。行進する靴音。ざっざっ。ばんざーい、ばんざーい。  
(できればスライド映像付きで)

男 欲しがりません勝つまでは、って……

女、寝息。すやすや。

男 …どうやって死ぬかな。

間。

女 …むにゃむにゃ。ねえ、もう死んだ？

男 え？あ、寝言でプレッシャー。…んじゃ、交通事故かな。

両手を伸ばして立つ。大声で叫ぶ。

男 僕は死にましえーん！

女 ？（起き上がる）

男 僕は死にましえーん！

女 うるさいよ。

男 あなたが、好きだから！

女 死んでよ。

男 あなたが好きだから！

女 好きなら死んでよ。

男 指輪も海に捨てましたしー。

女 古いってば。

男 もう、僕には……

女 ねえ！

男 ？

女、首を振りながら、笑顔で近付き、首に縄をかける。

男 え？  
女 いいの、もう。  
男 え？  
女 いろいろありがとう。じゃあね。(首をしめる)  
男 待った！殺人はまずいって。ヒロインじゃなくなってるって！  
女 うるさいもん、死んでよもう、古すぎるし。再々放送みたいなパロディーしてる場合じゃないのよ！  
男 わかったって。んじゃ死ぬよ。わかったよ、でもあれだぜ？オレが死ぬつつたら、ホントに死ぬんだぜ？  
女 うん。  
男 わかったよったく。じゃ、何で死ぬばいいの？  
女 待って、今夢の中でね、王子様が眠ってる私にキスしてくれるところだったの。  
男 うん。  
女 だから、その続きから死んで。  
男 は？  
女 だから、その続きから死んでって。  
男 その続きって？  
女 王子様がキスした続きからでしょ。あんたが王子様役で我慢したげるんだから。  
男 さ、私をかばって死んで。  
女 かばってって、どういう……  
男 もう、せっかくの王子なんだからそれくらい考えなよ。  
女 ……ごめんなさい。  
男 んじゃ、王子様がキスして、あたしが目覚めんの、すると、背後からでっかいネコがやってくんのね。  
女 ネコ？  
男 んで、王子様はあたしを助けて死ぬの。ネコと刺し違えて。  
女 ネコと刺し違えてって、かっこいいのそれ？  
男 (甘えて)メロメロ。  
女 よっしゃやるかー。  
男 んじゃあたし眠るからね。  
女 んじゃ、キス、と。

男、近寄って。

男 ぶちゅー。

沈黙。

男 ねえ、起きて。

女　ぐーぐーぐー。  
男　起きろって。  
女　ん、あ、おはよー。  
男　緊張感ないなー。

二人、ネコを待つ。

男　来ないね、ネコ。  
女　来ないなら出しなよ。  
男　え？なにそれ、とんちで？  
女　とんちでもなんでもいいから、早く出しなっ。よく言うじゃん。出ぬなら、出してみよう、ネコ。  
男　言わない。語呂悪いし。  
女　何よ！せっかく王子役に大抜擢してんのに。ネコと二役でもなんでもいいから早く出してよー。  
男　えー。それカッコイイの？  
女　（甘えて）濡れ濡れ。  
男　よっしゃ。んじゃ、にゃー！  
女　きゃー。王子様お助けー！  
男　この化けネコめ、お姫様は私が守る！  
女　きゃー王子様ー！  
男　この、この（一人で格闘。首しめる）。むむ、この体引き裂かれようとも、姫だけはー！  
女　あれー、王子様あー！  
男　ひめー！（ばたん。倒れる）  
女　…ああ、ありがとう王子。思ったより大したことなかったわ。じゃ、おやすみなさい。  
（ばたん）  
男　（起き上がる）おーい！

女、起きない。

男　おーい、起きろってー！  
女　なによお、うるさいわねえ。  
男　うるさいってことないじゃん。せっかく死んだのに。  
女　それよりもね、私気づいたんだあ。  
男　なにを？  
女　本当の愛ってね、私を守るために死ぬんじゃないで、私を守るために生きるものなんだって。ね、だからあなたも生き抜いて！  
男　そっちこそ古いし、取ってつけじゃん！  
女　いいの、もう寝かせてよ。

男 わかったよ、じゃ、がんばって生きるよ。  
女 うん、よかった。じゃ、おやすみ。  
男 おやすみー！

終わり。



## 医者と患者2「ガン告知」

---

医者と患者、向き合って座っている。

患者 先生、僕、ガンなんですか。

医者、ゆっくりあたりを見回している。

患者 先生、先生に聞いてるんですよ！

先生 知ってますよもちろん。私とあなたしかいないのに。

患者 …すみません。

先生 (遠くを見ながら、ささやくように) …ガンなんじゃないんですかあ。

患者 は？

先生 ん、あれ。(窓の外を指差して)

患者 なんですか。

先生 あれ、あの窓の、ほら、枝当たってるでしょ、外の。

患者 ハイ、それがなにか。

先生 枝が窓に当たって。ガン、ガンって。ね？

患者 え？

先生 だから、ガンなんじゃないんですかって。

患者 …は？それつまり、僕がガンってことですか。

先生 そうとは言ってない。そう言うつもりもない。そうと言う気なんてさらさらない。(何か言いかけてやめる) ……ないじゃろ！あ、あとあれ、なんか、ばれ、ばれえ。…ばれえ！

患者 …は？

先生 …ばれ！がん、ばれえ、がんばれえ！ あれも、ガンですよね。

患者 …は、何がですか？

先生 かまいません。

患者 言ってる意味がわかりません。

先生 ガンかどうか。それが重要なのは私じゃない！

患者 は？もちろん、重要なのは僕ですよ！当たり前じゃ……

先生 自分の寿命を知ってどうするんですか？残りの人生をよりエンジョイする  
とでも？

患者 え？……も、もちろん。ガンだったらそうするつもりですけど。

先生 よろしい、わかりました。合格です。

患者 何？

先生 あなた、ガンに、合格です。受かりましたよ、あなた。

患者 いや、どういう意味ですか、それやっぱ僕がガンだって……

先生 違います。あなたはガンにかかったんじゃないんです。あなたがガンを  
かけたんです。

患者 僕がガンを？ってなにそれ……

先生 二人羽織みたいなもんです。あなたはこれからガンという衣を身にまとい、大空へと旅だって行く、永遠に……

患者 それ死ぬってことじゃないですか。

先生 違います。ガンという翼を背に新たな地平へ飛び去ってくんです。まるで渡り鳥のようにね。人生は渡り鳥。ガン患者もまた然り。(悦にひたる)

患者 何うまいこと言ったみたいな顔してんですか。結局やっぱ僕ガンなんでしょ？僕、死ぬんですか？

先生 まだ死ぬと決まったワケじゃ……

患者 もう、わかりました。ガンだっただけでもわかって、ありがとうございます。

先生 待ってください。これからどうするつもりですか。

患者 そんなん、とにかく、前向きに、受け止めます。

先生 いいんですか。

患者 なにがですか？

先生 ガンで、いいんですか？

患者 いいわけじゃないんですか。でも、ガンなんでしょ？

先生 そうでもないんですよ、これが。

患者 なにが？

先生 想像ガンです。

患者 想像ガン？

先生 ガンかな、違うかな、やっぱガンかな、そんな心理が作り出した、新しいタイプのガンです。

患者 本当はガンじゃないんですか？

先生 本当はガンかもしれない、でも違うかもしれない。それがこの病気の怖いところです。

患者 だから、どっちなんですか。

先生 あなた、4ヶ月目です。

患者 は？

先生 想像ガン、4ヶ月目。おめでたですよ。

患者 おめでたいの？

先生 ありがたや、ありがたや。

患者 ありがたいの！

先生 生き仏です。

患者 死ぬってことでしょ！それつまり僕もうすぐ死ぬってことでしょ！

先生 もういいじゃないですか。そんな、生き死ににこだわっちゃ、素敵な大人になれないゾ！（可愛く）

患者 なれないですよ。死にますもん。僕もうすぐガンで死にますもん。

先生 バカッ！

医者、ビンタする。

先生 人間なんてみんな、いつ死ぬかわからないんです。だからこそ、今を精いっぱい、生きるべきなんじゃないんですか？今を生きて、精いっぱい……

患者 先生……

先生 たとえ3ヵ月後にあなたがこの世から消えても、この国は何一つ変わりませんよ！

患者 （感動的に）先生！……（怒りに変わる）そりゃそうだよ！全然慰めになってねえよ！

先生 慰めるつもりなんかありませんから。

患者 あれよ！もういい、帰ります！

患者、帰ろうとする。

先生 （真剣な声）慰めて完治するなら、医者は要らないんです。

患者 ……え？（帰りかけていた足を止める）

先生 慰めだけじゃ人を治せない。だから、私はここにいるんです。ここで、患者さん一人一人を診て、ガンの患者さんに、なんとか、元気になってもらえるように。告知の方法にも気を使いながら……

患者 先生……

先生 ガンだっていいじゃないですか。大事なのはそんなことじゃない。元気に明日に向かって生きていくってことでしょ？ガンだからって、ガンだからって、あなたはガンです。

患者 そんな……って、え？

暗転。

患者の声 やっぱガンなんじゃーん。

先生の声 （ちゃんちゃんの節で）ガンガン。

患者の声 ガンだけにね、あ、ガンだけにね！

終わり。

登場人物：豊本 角田 飯塚

（東京03の三人であて書き。あるコントを観ていて、勝手に途中から書き換えてしまいました。すみません）

あらすじ：

サラリーマンの角田と飯塚の二人が、（何かで余って）返してもらった三千円を分ける。ジャンケンで勝ったほうが二千円、負けたほうが千円と取り決める。そこに関係ない豊本が強引に割り込んで自分ももらおうとする。一度、豊本が勝手に「ジャンケンポン」と叫んで、グー、チョキ、パーであいこ。更に、ぐずぐず話し合っている内に豊本がもう1回ジャンケンしようとして……

豊 ジャンケン！  
角 ちょちょままー！

角田、中央の丸テーブルに腹ばいに滑り乗って、潰れた蛙のように手足をバタバタさせる。

飯 （苦笑）ちょちょまま、って。  
角 （必死に）ちょちょままだよ、むしろちょちょままだろ、今の流れ！

角田、テーブルからゆっくり元に戻る。

角 動くなよ、全員動くなよ、フリーズ！  
（両手を広げて大声で。すごくスッパイ顔で）  
飯 でかいつすよ、声が。あと顔がえっらいスッパそーつすよ。  
角 スッパくもなるよー。切なさ通り越してスッパいよそりゃ。いいか豊本、そんな流れはねえ！許されないよ！  
豊 えー、そうっすか？  
角 そうっすかじゃねえよ、醤油派だよ俺は！  
豊 へー。  
角 （苛立つ）冗談だよ！いいんだよ、それよりお前、さっきから聞いてりゃ、お前そんな流れ絶対許さねえぞ。だってお前、ノーリスクハイリターンだろ今の流れ、な？  
豊 は？  
角 なんも損しないだろ、お前は。1位が2千円、2位が千円で、三位がゼロ。でもゼロでもお前は痛くもかゆくもない。だってノーリスクだから！かつ、3分の2の確率で、千円単位の紙幣をゲットできる、これハイリターンだろ！こんなうらやましすぎる流れ、ありえないだろ普通？だろ？飯塚？

飯 (必死さに半笑い) ……まあ、そうっすね。

角 だろ？おまえも醤油派だろ？

飯 え？

角 (一向に受けないことに苛立ち) いいんだよ冗談だから。とにかく、俺は認めない、金じゃねんだよ、そんなおいしい流れは許さない。断固阻止する！

豊 (無視して) じゃ、ジャンケン  
角 ちょんちょまー！

また、丸テーブルに腹ばいで滑り乗る。

今度は、腹を中心にすーいすーい平泳ぎの格好で。

角 (ゆっくり、森本レオ調の優しい声で) まーてー。まーてーよーとーよーさーとー。

豊 豊本ですけど。

角 してーるーよー。名前も間違えるよーそりゃー。びっくりーだーよー。

ゆっくりテーブルから降りる。

角 …お前、それホントないよ、心臓に悪いよそれ、ちょっと、いきなりその流れなしだよ、いいか、その暴力的なジャンケンなしよ。ジャン権力だよそれ、ジャン権力の行使はなしよ、だろ？飯塚？

飯 (必死さに苦笑) はあ。

角 だからお前、じゃ聞くけど、なんで金ほしいんだよ。

豊 え、だって、他人の金じゃないっすか。

角・飯 は？

豊 (悪い笑い) 俺、他人の物取るの、すっげえ好きなんすよ。

飯 やっな奴だなー、お前。

豊 (親指立てて) まあね。

角 ふざけるな！認めない！絶対認めんよそんな理由。俺はね、お前のその理由次第では、ジャン権力行使もありかと思ってたよ、な？飯塚、だろ？

飯 え？

角 いいんだよ！とにかくないわ、その理由聞いて完全に断られた。ジャン権力は地に落ちた！（二人、苦笑）いいか、俺はこの金がほしい、ほしくてほしくてたまらない！

飯 さっきは金じゃないって。どっちっすか？

角 どっちも！醤油もソースもどっちも！

飯 (スルーして) 意味わかんないです。金、なんか必要なんですか？

角 よく聞いてくれた飯塚。実はな、今惚れた女がいるんだ。

飯 女？

角 そうだ、女だ。男たるもの、女に金を使ってなんぼ。そうだろ？飯塚？  
飯 いや、まあ。  
豊 （軽く）どこの女っすか？  
角 ああ？ハーレムの美樹ちゃんだよ。晴れる夢って書いて、ハーレムの美樹。  
豊 （急にテンション高く）あのキャバクラの？美樹！  
角 そうだよ、なんだお前、知ってんのか？あ、ちょっと待て、得意先から電話だ。

席外して舞台から消える。

飯 なんだ、お前知ってんのか、角田さんの女、どんな女？  
豊 ん？角田さんのって、ふっ。

豊本、携帯を取り出し、電話かける。

飯 誰？  
豊 ふふっ（不敵に笑い、答えない）。……あ、美樹？俺。  
飯 ……美樹って、お前まさか！  
豊 おう、そうそう（悪い笑顔で目くばせ）。ところでよ、お前、角田って奴知ってる？え？……そんなしょっちゅう通ってた。……え？お前がくれた？…これ？  
（自分のポケットからキーケース出す）  
あ、このキーケース、角田がくれたんだ、へえー！  
飯 お前！（角田が帰ってこないかキョロキョロする）  
豊 そうか。じゃもしかしてあれか、お前この前言ってた、例のロレックス、ああそう。やっぱそうか！ははは！そうかそうか！  
（すごく楽しそうだが、急に不機嫌な顔で）  
え？わかったよ、うん、はいはい、愛してる愛してる、じゃまたな。  
飯 お前マジか？

角田、何食わぬ顔で戻ってくる。

角 お、どうした、なんかあったか？  
飯 え、いや。  
豊 （急に真顔で）角田さん！俺、間違っていました！  
角 え？  
豊 やっぱ、角田さん正しいっす。  
角 え、何が？  
豊 言ったじゃないっすか。角田さん、男は女のために金使うって！それ正しいっす！

角 (笑顔で) お、そうか！  
豊 そうっす、いや、しょうっす！俺も醤油派っす！  
角 (抱きつく) わかってくれたか、豊本。お前も醤油派か！  
豊 角田さん、もらってください、この3千円！  
角 え、いいのか？  
豊 いいっす！俺が間違ってたっす！  
飯 いや待てよ、お前の金じゃねえだろ！  
豊 いいだろ、お前も角田さんを応援してやれよ！  
飯 (呆れて) お前マジか？マジひどくね？  
豊 ひどいって、なんで？(すごい悪い笑顔で)  
角 そうだぞ、ひどいわけあるか飯塚。お前こそ何言ってるんだ。  
飯 いや、騙されてますって、角田さん。  
角 お前までそんなこと言うのか！俺は騙されてねえよ！美樹は俺のこと騙したりしない！  
豊 その通り！  
飯 そうじゃねえよ！美樹だけじゃなくて、あんた、豊本に騙されてますって。  
角 豊本が何を騙すんだよ、なあ？  
豊 そうだよ、そういうお前こそ、この3千円がほしいだけだろ？  
飯 違うよ！  
角 いいや違わない、豊本の言う通りだ。お前はこの3千円が惜しいだけだ。だがな、俺は今、世界中の誰よりも金がほしい。美樹がねだってさ、買ってくれたら結婚してもいいって。  
豊 なんすか、なにをねだってるんすか？  
角 いや、なんだ。最近女が男ものの時計すんの流行ってるらしくてさ、男もののロレックスがほしいとか言いやがってさ。それをな、今度。  
豊 ひゃっほう！最高です角田さん！  
飯 ひゃっほうって、喜びすぎだろ、お前、ひどすぎるわ！  
角 何がひどいんだ、豊本は俺と美樹の結婚を祝福したいだけだろ？  
豊 その通り！  
飯 あんた馬鹿か！  
角 なんだと！先輩に馬鹿とは何事だ！  
飯 馬鹿だよあんた。豊本、お前、キーケース出せ！  
角 え？  
飯 いいから、キーケース出せよ、早く！  
豊 (悪びれずに、ヘラヘラして) いいよー。

ポケットから、キーケース出す。

飯 これ、角田さん、見覚えあるでしょ？  
角 あ、なんだ？ヴィトンのキーケースか？

飯 これ、最近美樹って子にプレゼントしたんじゃないんですか？  
角 ああ！そうだそうだ、これと同じ奴だ。なんかレアものらしいなこれ。  
…おお、奇遇だなあ、豊本。  
豊 ですよねえ。(悪い笑顔で)  
飯 奇遇じゃねえよ！これ、角田さんが女にプレゼントしたやつですよ！  
角 は？  
飯 だから、こいつは美樹って女からこれをもらったんですよ！  
角 ええ！

驚く角田。キーケースと豊本の顔を何度も見比べる。

角 ……つまり、あれか、豊本も美樹に、つまり……豊本の彼女も、美樹って  
名前なのか？そりゃ奇遇にもほどがあるなあ！  
豊 ソースっす！  
角 やっぱソースも大事派かあ！  
飯 調味料の話すんな！  
角 え？  
飯 醤油もソースもねえよ！こいつ、角田さんの女と出来てんですよ！その  
キーケースも、今度買うロレックスも、その女に買いでもらってん  
ですよ！  
角 えええええ！

角田、丸テーブルに体重を預けて。

角 そんな、そんなことって。

豊本、悪びれず、ヘラヘラしたまま。

角 ……そうか。本気なのか、豊本。お前、美樹に本気か？  
豊 (軽く)遊びっす！  
角 (崩れ落ちる)遊びかー！  
豊 (へらへらと)はい！  
角 (遠くを見て)そっかー、遊びかー。  
飯 お前さあ、カワイソすぎるだろ、角田さん、これじゃ。  
角 (心ここにあらず)美樹、遊ばれてっかー、豊本に。  
飯 お前、これをきっかけにさ、美樹と別れるよ、な？  
豊 うーん。手切れ金があればなあ。とりあえずこの3千円頂戴よ。  
飯 は？お前って、本当に最低な奴だな。…角田さん、3千円で別れるらしい  
っすよ、豊本。  
豊 いや、やっぱ、3千円とロレックスで。  
飯 はあ？(呆れて)お前なあ、もういい加減に……



角田が飯塚を遮る。一番真剣な顔で。

角 もういい、飯塚。わかった豊本、ロレックスは買ってやる。でも3千円は渡さねえ。これは、俺と飯塚の金だ。もう、飯塚は巻き込むな。

飯 角田さん……

豊 (へらへらと) ごっちゃんです！

飯 (怒って) 豊本、お前！

角 (制して) いいんだ、飯塚。……なあ、飯塚、この3千円、ジャンケンで勝ったほうが総取りにしないか？

飯 (驚いて) え？…いや、でも角田さんジャンケンなしで取っていいですよ。なんかいろいろあったし。

角 いいんだ、勝ったほうが、3千円。な？ (すごく真剣な顔で)

飯 (決意した顔で) …わかりました。じゃ、負けたほうがゼロですね。

角 いや、負けたほうは……

角田、飯塚の肩を叩いて、親指立てて、すごくいい笑顔。

角 ロレックス買おう！

飯 ふざけんな！

終わり。

## 医者と患者3 「心も裸に」

---

登場人物：医者 患者

中央で椅子に座っている医者。プリント T シャツにジーンズなど、極めてカジュアルないでたち。医者、患者共に男性が好ましい。患者は押しが弱い感じ。患者、下手から入場。

先生 こんにちは。

患者 ……え？あの、先生、お医者さん、ですよ？

先生 もちろん。なぜですか？

患者 いや、失礼ですけど、どう見てもそれ、ただの普通の私服じゃないですか？

先生 そう、これがいまの医学界の新しい流れなんです。まあ、医者カジ療法とでも呼んでください。じきわかりますから。

患者 …医者カジ療法、ですか。

先生 医者だって普通の人間でしょう？だから、もっと普通に患者さんと接しようという試みなんです。心もカラダも私服になって、ときに笑い、ときに泣き、共に感情を分かち合い、ね。それで、今日はどうされました？

患者 …はあ、ちょっと、お腹が痛くて。(椅子に座る)

先生 それじゃ、お腹見せてください。

患者 はい。(お腹見せる)

先生 …まだまだですね。

患者 はい？

先生 言ったでしょう？心もカラダも私服になるって。あなたはまだ私服になりきれてない。特にお腹が。もっと全身でお腹を出してください。第一その出しかたじゃお腹にも失礼だ。あなたのお腹はまだ鎖に縛られたまま、本来の持ち味をその半分も発揮できていないんです。

患者 いや、お腹の出しかたでダメ出しされても……

先生 いいですか、もっとヘソを大胆に生かして。むしろヘソ重視で。ねえ、ヘソは万物に通じてるんです。あなたは生まれてこのかた、一度でもヘソ万歳っていう気持ちがありましたか？

患者 …それは、ない、気がしますけど。

先生 でしょう。それがいけない。生物として非常に、まあなんていうか、微妙です。かなり、危険な香りっていうか、つまり、スパイシーな夜にご用心って、ちょっと、そういう感じでいっぱい。わかります？

患者 わかるかな。

先生 とにかく、ヘソ万歳って気持ちさえあれば、なんか、いいことづくめです。5キ口やせます。

患者 そんなに。  
先生 そう。では、いってみましようか。はい。ヘソ万歳！  
患者 はい。ヘソ万歳。  
先生 気合が足りませんね。あなた、気合入れるときなんて言います？  
患者 なんだろ。やあ、かな。  
先生 やあ。それいただきましょ。さあ、声を出して。一、二の、三。  
患者 やあ！  
先生 …ぷっ。ヘソだして「やあ！」って。  
患者 な、言われた通り……  
先生 かまいません。(肩に手を置き) 患者さんがいかに半端な出しかたをしようとも、それを受け止めるのも、医者の仕事ですから。  
患者 …はあ。そうですか。  
先生 お腹の出しかたはとりあえず宿題にしましょう。じゃあ次に、心理状態を私服にしていましようか。ではこれからちょっとした心理テスト形式の質問をしますね。  
患者 はい。  
先生 先日、私の妻に子供ができたんですが……  
患者 …え？あ、おめでとうございます。  
先生 ありがとう。…で、誰の子なんでしょうね？  
患者 は？…誰って、先生の子じゃ、ないんですか？  
先生 ふ、違うな。あなた、心が私服になってない。  
患者 え？  
先生 私服のあなたはそんなじゃない。私の妻に子どもができたって聞いたとき、あなたこう思ったはずだ。…ホントに先生の子かよ。  
患者 被害妄想です。  
先生 いいですよ。さあ、腹痛を治すためにも、本心をぶちまけてください。  
患者 …言えませんそんな。  
先生 さあ！  
患者 …誰の子なんてわかるモンか。あのあばずれ。  
先生 まだまだスーツが脱げてない。  
患者 犬の子でも生むんじゃねえの。  
先生 さらにもう一声。  
患者 でも先生の子ってのが一番悲惨かもな。  
先生 合格です。  
患者 ごめんなさい。  
先生 いや、謝ることはないですよ。気にしないで。本当のことですから。(患者の肩に手をおいて、目を見開いて) 私も全然、気にしてませんから。  
患者 いや……  
先生 別に誰も責める気はないんです。間違いは誰にでもある。そう思いま

せん？

患者 …あの、事情はわかんないけど、でも元気出してください。  
先生 そんな言葉、久々に聞いたな。ありがとう。じゃ、お腹切りましょ。

患者 え？それ手術ってことですか、なんでそんな。

先生 心配しないで。手術ではありません。

患者 んじゃ、なんですか。

先生 ちょっと切るだけですよ。縫ったりはしません。

患者 いや、縫ってくださいよ、むしろ。

先生 なぜ？

患者 なぜって。

先生 私が切る。あなたは苦しむ。私がほくそえむ。あなたは血の海のなかで、新しいお腹の出しかたを見つける。それ以外どうやって妻への憎しみを鎮めろって言うんですか！

患者 いや鎮めてくださいよそこは、せっかく僕慰めたのに、奥さんのことでやつあたりしないでください。

先生 あ。

患者 あ。いや、すみません。

先生 (優しく) ふっ、いいんですよ。

患者 え？

先生 わかってました。あなた、正しいですよ。それじゃ、本当に、縫っていいんですね？

患者 いや、そこ強調されても。…でもいいですよ、もう帰ります。

先生 え？

患者 正直、先生、怖いんです。もっと、ちゃんと普通のお医者さんに……  
先生 だから、言ったじゃないですか。医者だって普通の人間なんですよ。ミスもする。お腹にメス置き忘れてたり、カルテを改ざんしたり、でも、それが普通じゃないですか。

患者 いや、普通じゃない、犯罪ですよそれ。

先生 普通の犯罪です。

患者 待って、それ医療前線にたずさわる者の告発と受けとっていいんですか？いきなりすごい社会派ドラマになりますけど。

先生 だから、私もいま真剣に模索してるんですよ。もっと人間的な医療の  
できる、新しい現場をね。ときに笑い、ときに泣き、ときにミス、  
お腹に、メス。(決めポーズ)

患者 全然新しくないです、それ。韻の踏みかたも、ポーズも。

先生 試してもないのに？

患者 え？

先生 試してもないのに新しいかどうか、あなたにはわかるんですか？これが新しい治療法だとしたら？あなたが知らないだけで、やってみれば別世界が見えるかもしれない。腹痛から解放され、さらに金運アップだって思いのままかも。さあ、今からでも遅くない、だまされたと

思っで一緒に。

患者 や、そんな。

先生 指先はこう。(人差し指と中指を伸ばしてお腹に向ける) 行きま  
しょう、一緒に。

患者 ああ、まさか、こんなことって……

二人、スローモーションのように。

二人 お腹に、メス。(メス、メス……。エコーかかる)

二人を嘘のように眩しい光が包む。向かい風があればなお良い。

患者 先生、これは！

先生 これが新しい医療の力、本物の医者カジ療法です！

患者 すごい！ああ、見える、新たな地平が！

先生 そう、あれがサバンナの大自然です。

患者 サバンナ関係ないけど、でもすごい、確かに見える、…ライオンに、  
あれは！

先生 で、お腹、痛いですか？(ライトすぐ消える)

患者 あ、シマウマ、…え、もしや、もう？

先生 そう、カジュアルでヒップホップな医療からはじまる、この夏一番の  
治療革命。もう病院がフォーマルだなんて呼ばせない。男の医者カジ  
療法。で、効き目のほどは？

患者 もうびっくりです、さっきまでの痛みが嘘みたいです。背も5センチ  
伸びました。

先生 でしょう？実はもう、切ったんですよ。

患者 え、もう？

先生 そう。しかも、縫い終わってるんです。

患者 そんなまさか。

先生 あなたのねじれた、ハートをね。

患者 うわーい、医者カジばんざーい！

舞台袖からいろんな人が出てきて「ばんざーい、ばんざーい」と叫んで踊る。

暗転。

終わり。

## ボクシング

---

登場人物：ヤング小西、ウーハー峰岸、高嶋ひろし山、アフロ外人、ロボ公

舞台上は暗いまま。

リングアナ　ただ今より、ダブリュビーエー世界タイトルマッチ選手権試合を行ないます。赤コーナー、挑戦者、大人ジム所属、ヤング小西ィー。青コーナー、世界タイトル王者、子供ジム所属、ウーハー峰岸一、高嶋ひろし山一。レフリー、ジョー田口。

カーン。明転。

舞台上、一人の挑戦者（ヤング小西）と二人の王者（ウーハー峰岸、高嶋ひろし山）がリング上で対峙している。当然、ヤング小西、ボコボコにされ、ダウン。

リングアナ　ダウン。1、2、3……

ヤング小西、よろよると立ちあがり、両手を頭上で交差する。

リングアナ　タイム！

ヤング、王者二人とリング中央へ。

ヤング　ちょっとさあ、おかしくない？

ウーハー　なにが？

ヤング　なんか、強くない？

高嶋　そりゃ王者だもん、当たり前じゃん。

王者二人　なあ？（顔を見合わせて）

ヤング　じゃなくて、なんていうか、数が多くない？

高嶋　そうか？

王者二人　なあ？（顔を見合わせて）

ウーハー　それより、おまえが少なくない？俺ら2発打つ間に、おまえ1発しか打ってなくない？

高嶋　そう、おまえが少ねえよ。ちゃんと練習したのかよ。

王者二人　クスクス。（顔を見合わせて）

ヤング　んだよ、ざけんなよ。んじゃオレのマッハパンチみせてやるよ！

ヤング、王者二人を突き放す。

リングアナ ファイツ！

だがもちろん、ぼこぼこ。弄ばれ、倒れる。

リングアナ ダウン。1、2、3、4……

ヤング、よろよると頭上で両手を交差。

リングアナ タイム！

ヤング、なんとか立ちあがり、

ヤング やっぱおかしいって！

ウーハー なにが？

ヤング あんたら強すぎ。だって前から後ろからパンチくるし。

高嶋 強くて当然だって。オレらの前評判聞いてんだろ？

ウーハー 18戦18KO、無敗の王者に死角ナシ。

高嶋 前から後ろから飛んでくるパンチは、まるで1対2で闘うような錯覚。

今週のボクシングファン読んだ？（セコンドから雑誌渡されて）

王者二人 ほら、ここここ。

ヤング いや、そうだけど、オレだって前評判じゃ、鉄壁のガードって言われて、ほら、その次のページ。

王者二人 あああ。（その記事を指さして二人で読み合う）

ウーハー でもこりゃ嘘な。おまえのガード甘すぎだもん。さっきからボコボコじゃん。

高嶋 ホントに2対1みたいだよ、ドランカー症状じゃん？

王者二人 クスクス。

ヤング っざけんなよ。んじゃ打ってみろよ！

ヤング、二人を突き放し、ファイティングポーズ。

リングアナ ファイツ！

カーン。ぼこぼこ。しかも、いつのまにかセコンドから、アフロの外人が一人増えてる。

外人は基本的に殴る途中でも観客に愛想を振りまき続ける。

ヤング、ダウン。

リングアナ ダウン1、2、3、4、5、6……

ヤング、よろよると頭上で両手を交差。

リングアナ タイム！

ヤング、なんとか立ちあがり、

ヤング やっぱおかしすぎじゃん？

外人、観客に愛想を振りまき、手を振っている。

高嶋 なにが？

ヤング なんか、増えてない？ってか、いっつもみてるタイトル戦と、これちがくない？

ウーハー ああ、確かに違うな。

高嶋 おまえ弱すぎだもん。

ウーハー おまえやられすぎ。そんな挑戦者いねえよ。

王者二人 なあ？（観客に投げキッスする外人を見ながら）

アフロ ハイ。マイネームイズ、サムデース！（グッドポーズで）

ヤング じゃなくて、おかしいって絶対。こいつ外人で、しかもアフロじゃん。（再び観客に手を振る外人を指差しながら）

ウーハー 外人って差別すんなよ。

高嶋 そうだよ。アフロにだって人権はあんだよ。

王者二人 なあ？（アフロ外人を見ながら）

アフロ ハイ。マイネームイズ、サムデース！（グッドポーズで）

ヤング やたら陽気じゃん。陽気な外人に笑いながらぼこられたくねえよ。

ウーハー そんなこと言うなよ。それ差別だよ。

高嶋 そうだよ。やたら陽気なアフロにだって人権はあんだよ！

ウーハー それよりおまえもうへろへろじゃん。

高嶋 いかげん反撃してこいよ。

ヤング なんだよ、なめんなよ、やったるよ三人くらいへじゃねえよ！

ヤング、三人を突き放し、ファイティングポーズ。

リングアナ ファイツ！

カーン。ぼこぼこ。三人相手にぼろ雑巾のように。ダウン。

リングアナ ダーウン。1、2、3、4、5、6……

両手を交差。

リングアナ タイム！



ヤング おい、よく考えりゃ、ボクシングって一対一のスポーツだろ。

ウーハー 当然。マージャンじゃねんだから。

高嶋 四人で卓囲むか？ボクサーが？

王者二人 なぁ？（アフロ外人を見ながら）

アフロ ハーイ。アイムフロム、オハイオ、カラ、キマシター！

（グッドポーズで）

ヤング じゃ、これ、一対一か？

ウーハー 一対一だろ？

高嶋 おまえ対俺らだろ？ なにがおかしいんだよ？

王者二人 なぁ？（アフロ外人を見ながら）

アフロ ハーイ。アイムフロム、オハイオ、カラ、キマシター！

（グッドポーズで）

ヤング オハイオってどこだちきしょー！

ヤング、三人を突き放し、ファイティングポーズ。

リングアナ ファイツ！

ふと、ヤングの携帯が鳴る。

「あ、ちょっとごめん」のゼスチャー。パンツから電話。でる。

王者二人、手持ちぶたさに軽く見守る。外人は観客に愛想。

ヤング え？あ、うん、いま？あ、まあ、大丈夫だけど。

電話を右肩ではさみながら、軽くファイティングポーズ

ヤング うん、そうそう、え？じゃ、来る？うん、わかった。じゃ。

電話切れ、「ごめん」のポーズ。

再び試合が始まるところに、挑戦者のコーナーから全身銀色の  
ロボコップ風が現れる。

ロボットダンスの動き。基本的に、いつもぎこぎこ動いている。

ロボ キーガチャン、キーガチャン！

ヤング あ、ロボ公ひさしぶり！どう、元気？

肩をたたき、突然、一緒にファイティングポーズ。

王者二人、手を交差。外人は再び観客へ愛想。

リングアナ タイム！

ウーハー そいつロボだろ！

高嶋 　　ってか鉄でできてるだろ！

ヤング 　　ロボじゃない。ロボ公。友達だよ。ちょっと近所まで寄ったから、軽く会おうって言うただけだよ！

ウーハー 　　でもよう。

高嶋 　　絶対ロボだよそれ、鉄っぽいモン。

王者二人 　　なあ？（外人を見ながら）

アフロ 　　ハイ。ナイス、トゥ、ハジメマシテー！（ロボと握手）

ウーハー 　　挨拶すんなよ、おれらが失礼みたいじゃん。あ、初めまして。

王者二人、ロボと握手。ウーハー、手をマジマジ見て。

高嶋 　　やっぱロボだよ。手も冷たいし。

ヤング 　　優しんだよ、手が冷たいのは。よく言うじゃん。なあ？

ロボ 　　ワタシ、ロボ、チガウ。（否定のゼスチャー）

ウーハー 　　ロボだー。これロボだよー！

ヤング 　　ロボ公は生まれつきこういうシャベリかたなの！おまえらこそなにびびってたんだよ！

王者二人 　　だって、なあ？（外人を見ながら）

アフロ 　　ハイ。ナイス、トゥ、ハジメマシテー！（ロボと握手）

ヤング 　　どうすんだよ、外人はやる気だぜ？

ウーハー 　　わかったよ、やるよ。

高嶋 　　後悔すんじゃねえぞ！

リングアナ 　　ファイッ！

カーン。ロボが右手からレーザービームなど出して、苦戦する王者組。

すると、高嶋のアラームがなる。ピコーン、ピコーン。

高嶋 　　あ、いっけねー！（と言いながらリング外に消える）

ヤング 　　え、なに？

ウーハー 　　いや、あいつああ見えても地球に3分しかいらねんだよ。

なんつーか、宇宙人的な一面があっせ。

ヤング 　　へー。大変なんだー。

ウーハー 　　だから1分前だとアレが鳴って、ちょっと変身とかもすんだけどさ。

高嶋 　　デアッ！（○ウルトラマン風で登場）

ヤング、両腕を頭上で交差。

リングアナ 　　タイム！

ヤング 　　ヒーローだろそれ！後樂園でちびっこと握手してるだろ！

ウーハー 　　いや、違うよ。確かに最近よく営業行くけど、なあ？

外人 ハジメマシテー。(陽気に握手)

ヤング オレもしてえ!

(並ぶ。後ろにロボも。順番に握手。元の位置に戻る)

高嶋 ヘアッ!(ファイティングポーズ)

ヤング よっしゃー!こうなりゃ東映マンガ祭りでもどらはっばーでも、なんでも来いよ!

ウーハー どらはっばーってなんだよ!

ヤング しらねえのかよ!ドラえもんハットリくんパーマン総出演、夢の映画じゃん!

全員 古っ!(声をあわせて指差す)

リングアナ ファイツ!

カーン。

ヤング、手にバズーカ。ロボも機械銃。王者二人、手を交差。

リングアナ タイム!

ウーハー すっごい反則ッポイ感じ、それ!

ヤング もういんだよ、バズーカから始まる恋だってあるんだよ!

ウーハー ねえよ。ってか、意味がねえよ。撃ったらおしまいじゃん、ばーんって!

ばーん。ロボの銃口、外人に発射される。

高嶋 ヘアッ?(外人の顔を見る)

アフロ外人 ハーイ。(笑顔が急に驚きに)ナンジャコリヤー!

(グッドポーズで倒れる)

ウーハー あ、外人が!

高嶋。脈をチェック。

ウーハー ほら! ドラマも感動もねえじゃん!

ヤング ロボ公! (間)……それが、おまえの恋?

ウーハー なんでだよ!

ロボ オロカナ、ニンゲンドモアルネ。ワレワレキカイガ、シハイスルノコト、ヨロシヨー。

ウーハー ロボ暴走じゃん。しかもカタコトが中国製?だいたいそうやって武器がエスカレートしてっからイラクとか北朝鮮とか、核問題とかなるんじゃん。同じ過ちの繰り返しじゃん!

高嶋。首を振り、外人に白い布をかぶせる。

ウーハー おい……とむらい合戦か？

高嶋 グッバイ、サム（敬礼）。

リングアナ ファイツ！

かーん。暗転。（ここからは声のみ）

ウーハー あ、外人の友達のアメリカ海兵隊百人が駆けつけた！

ヤング ロボ公の命令で世界中のロボが終結してく！

ウーハー ウルトラマンが巨大化した！

ヤング 地底から怪獣軍団が！

全員 地球最終戦争、ハルマゲドンだ！

リングアナ お客様に申し上げます。ただいまの試合は、両者ドロー。

勝者なし！

全員 気づいてください。もはや、勝者のない戦いに、私たちが今、  
のまれようとしていることを。ストップ、ザ、ウォー。

二十一世紀の合い言葉です！

かんかんかんかん。

全員 えーしー！

終わり。

## 小さな命、大切に

---

登場人物：男 精子くん 精子ちゃん

(※このコトは若干アダルト？な下ネタが含まれます。)

真っ暗の舞台に、男の声だけが聞こえる。

男の声 ハア、ハア、ハア、ハア……

なにやら悩ましげな声。

男の声 ハア、ハア、ア、アアア、ン……

切ない声が途切れる。間。

男の声 フウ……

がさごそ。ティッシュの音。明転。

舞台上に、真ん中に男が一人、客席に背中を向けて寝そべっている。股間を見ながら、なにやらあやしい動き。下手にはなぜか、白い全身タイツを着用し、尻尾も生えている、巨大なおたまじゃくしのような人物が、客席に背を向け寝転がっている。間。

突然、白いおたまじゃくしが、魚のようにピチッとはねる。

男、初めてその存在に気づく。

男 だっ！（驚きの声）

ピチピチとはねつづける、おたまじゃくし。間。

おたまじゃくし、はねるのをやめ、ゆっくり立ち上がる。

ほっぺたの赤い、子供のような目をしたおたまじゃくし。

客席に向かって、仁王立ち。そのまま、明るい声で観客に呼びかける。

おたまじゃくし やあ、ボク、精子くん。

間。精子くん、今度は男に向かって。

精子くん やあ、ボク、精子くん。

間。言葉も出ず、寝転んだまま、呆然とする男。再び、男に向かって。

精子くん やあ、ボク、精子くん。

間。

男 やあ……

精子クン コンチワ。それで、卵子チャンはどこ？

間。

精子クン 卵子チャンはどこ？

男 らん、し？

精子クン そう、卵子チャン。どこ？

間。

男、勢いで、上手のほうを指差す。

男 あっち。

精子クン あっちか！ありがとう。

精子クン、元気いっぱい駆けて行く。

精子くん まてー、卵子チャンめー、こいつー、はらませちゃうぞー！

精子クン、笑いながら去る。長い、間。舞台上に、男だけが取り残される。

男 精子、クン？

間。男、立ち上がりながら。

男 はは、精子クン……

精子クン、上手から勢いよく登場。

精子クン 呼んだ？

男 わあっ！（驚きの声）

男、驚いて飛びのく。

精子クン ねえ、お父さん。

男 お父さん!?（声、裏返る）

精子クン お父さん、でしょ？

間。

男 お父さん、って、この場合（少し照れる）、いやあ……

精子クン 絶対お父さんだよ。ねえ、お父さん。

男 ……なに？

精子クン あのね、卵子チャンってさ、どんな形なのかな。ボクの中って、ヒアルロニダーゼとかアクロシンっていう、卵子のバリアーを溶かす酵素ばっかしか入ってないからさ。脳ミソないんだよね、バカなんだ、ボク。それで、卵子チャンがどんなのかも知らなくてさ。お父さん、教えてくれない？

男 卵子チャン、の、形？

精子クン うん！

間。

男 …太陽、みたいんじゃない？

精子クン 太陽？

男 その（客席上方を指さし）窓から上見るとさ、光ってるのが、太陽。

精子クン どれどれ？

精子クン、舞台前方に来て、上をのぞくゼスチュア。

精子クン ああ、あれが卵子チャンかあ。ちょっと遠いねえ……

精子クン、遠さに興奮して、ピョンピョン跳ねながら。

精子クン どうしよ、遠いよ、どうしよ、遠いよ。

男 …うん。（目をそらしながら）

精子クン んじゃ、お父さん四つんばいになって！

男 え？

精子クン お父さんが台になって、ボクがその上に乗れば、卵子チャンにも届くと思うんだ。

間。

男 …いやあ。（首を横に振りながら、体は引き気味で）

精子クン 絶対届くって。だって、夢はきっと叶うんでしょ？それとも、夢をあきらめちゃうの？お父さんはボクたち子供から、夢を奪ってもいいの？

精子クン、ちょっといじけた感じで。男、それを見て。

男 さ、乗って。

(すごくいい笑顔で四つんばいになって、精子クンに呼びかける)

精子クン ありがとう、お父さん。

精子クン、男の上に乗る。前方上空に手を上に伸ばす。

精子クン 届け、届け！

精子クン、爪先立ち。もちろん、何にも届かない。

精子クン ダメかあ……

精子クン、男から降りる。

精子クン ダメだったね、お父さん。

男 うん……

精子クン 叶わない夢も、あるんだね。

間。

精子クン ボクさあ、もうすぐ、死んじゃうんだ。

男 え？

精子クン ボクら精子は、精巣を出ると3日しか生きていられないんだ。

乾燥にも弱いし。だから、卵子チャンに早く到達できないと、

死んじゃうんだよね。

間。

精子クン ボク、絶対一番になって、立派な人間になれる自信、あったのになあ。

精子クン、足で地面蹴りながら。

男、それを見て。

男 ごめん、精子クン！

土下座して。

精子クン どうしたの？

男 ごめん、俺、つい、出来心で、そんなつもりなくて、ただちょっと寂しく



て、つい、手が勝手に……

精子クン （急に大人びて）わかってる。

男 え？

精子クン 言わなくても、ホントは全部知ってた。

男 精子クン……

間。

精子クン 寂しかったんだよね。ただ、寂しさを紛らわしたかったんだ。

男 うん。あのね……

精子クン （急に明るく）それで話し相手に、ボクを呼んだんでしょ？

男 （とっさに）うん。

間。

男 （声、裏返って）はい？

精子クン でもさ、ボクもう戻らなきゃ、寂しいときはまた呼んでね。

男 戻らなきゃって、どこに？

精子クン、男の股間を指さして。

精子クン そこ。

男 （自分の股間を指さして）ここ？

精子くん そこ。

間。

男 （泣きそうな顔で、自分の股間を指さして）ここ？

精子クン そこ。

間。

男 ムリ！絶対ムリ！

精子クン ムリじゃないよ、だって僕そっから出てきたんだよ！

男 （急に、女っぽく）ムリよ、壊れちゃう！

精子クン 壊さないよ、だって、気持ちよかったでしょ？

男 （以下、女っぽいままで）でも、でも……

男、精子クンを上から下まで、まじまじと見る。

男 ダメ、それだけはダメ！

精子クン 大丈夫、悪いようにはしないから。

精子クン、無理やり男の股間を開き、頭をつけようとする。

男 いや、無理やりしないで、無理やりはいや！

間。

男 優しく、して……

精子クン わかってるって。まかせなよ！

精子クン、また頭をつけようとする。

男 待って！

精子クン なに？

男 初めてなの、幸せにしてくれる。

精子クン もちろん！

精子クン、またまた頭をつけようと。

男 待って！…せめて、電気消して。

暗転。

精子クンの声 さあ、いくよ！

男の声 ああ、だめ、だめえ、ああ、すごい、すごい痛い、やっぱ  
すげえイテエ、でもなんかキモチイかも。ああ、イタキモチイ、  
大人の世界ってスゴイ！

精子クンの声 それえ！

男の声 あれええええん。(エコーかかる)

間。明転。男、放心状態で、舞台の真ん中に寝ている。

男 ハア、ハア……

ゆっくり、起き上がる。

男 精子、クン……

自分の股間見る。

男 精子、クン？  
精子クンの声（大勢） 呼んだー？

後ろのスクリーンに、大勢の精子クンたちが映る。

男 うわああ！

男、驚いてのけぞる。

精子クン（大勢） お父さーん！

暗転。

ナレーター （真面目な声で）小さな命を、大切にしましょう。

明転すると同時に、舞台中央に横たわっていた男が、突然起き上がる。

男 はっ、夢？

自分の股間を見つめる男。ゆっくり股間に手を伸ばし、確かめる。

だが下手にはなぜか、白い全身タイツを着用し、尻尾も生えている、巨大なおたまじゃくしのような人物が二人、客席に背を向け寝転がっている。間。

突然、白いおたまじゃくしたちが、魚のようにビチビチッとはねる。

男 またっ！（驚きの声）

ビチビチとはねつづける、おたまじゃくしたち。間。おたまじゃくしたち、はねるのをやめ、ゆっくり立ち上がる。ほっぺたの赤い、子供のような目をしたおたまじゃくし。

男と女。

客席に向かって、仁王立ち。そのまま、明るい声で観客に呼びかける。

精子クン やあ、ボク、精子クン。

女のおたまじゃくし あたし、精コチャン。

男 増えてる！

精子クン お父さん、久しぶり！また呼んでくれたんだね。

男 いや……

精子クン 今日は妹の精コも連れてきたよ。ホラ精コ、これがお父さんだよ。

精コチャン はじめましてお父さん。妹の精コです。漢字は一緒だけどね。

精子クン んじゃ精コ、さっそく準備体操しようか。

精コチャン うん、お兄ちゃん。

二人、お互いを背中合わせで背負ったり、屈伸したり、準備体操をはじめ。

精子クン 絶対、精コより先に卵子チャンをはらませるぞ！

精コチャン あたしこそ、おぼこ娘の卵コチャンをひーひー辱めちゃうんだから。ここか、ここがええのんか？って！

精子クン こいつー、生意気だぞー！

精コチャン お兄ちゃんこそ！

精子クン ちなみに精コはどっちの卵管から入るつもり？右、左？

精コチャン あたしは右かな。

精子クン じゃ、ボクは左にする。うまく同時ゴールできたら、二卵生双生児だね。

精コチャン 人間になったら、あたしがお姉ちゃんかも！

精子クン 精コったらー、ホントに生意気なんだからー！

精コチャン お兄ちゃんこそ！それで、卵子チャンはどこ？

二人、男を見る。

精コチャン それで、卵子チャンはどこ？お父さん。

間。男、土下座。

男 ごめん、俺の卵子チャンは、ここにはいないんだ。

精コチャン え？

男 俺の卵子チャンは、きっと、どこか遠くて、まだ俺も見ただことのないところで、俺のこと、ずっと待っていてくれないかな。なんて、ムシがよすぎるかな、はは。

精コチャン 見たこともないところ……

精コ、真剣に落ち込んだ表情。

男 …ごめん、ホントごめん！俺！

精子クン お父さん、わかってるって。

男 え？

精子クン 精コ、あれ、見てごらん？（窓の外見せる）あれが卵子チャンなんだ。今回精コを呼んだのはね、前は、お父さんが台になって、ボクが上に乗って届かなかったから、今度はボクとお父さんが台になって、精コが手を伸ばせば。

精コチャン （喜んで）届くね！

二人、興奮してピョンピョンはねる。

精子くん さ、お父さんも力を貸して。  
お父さん え？  
精子くん さ、早く！

精子くんとお父さんが、立ち上がり、チアガールのような組み方で精コちゃんを上  
のせる。

精子くん さ、精コ、手を伸ばしてごらん？  
精コちゃん うん、わかった！

精コちゃん、手を伸ばす。もちろん届かない。

精子くん 届いたー？  
精コちゃん もうちょい！  
精子くん がんばれ精コー！  
精コちゃん うん、がんばる、お兄ちゃん！

しばらく、手を伸ばし続けるが、もちろんなににも届かない。

精コちゃん ダメ、届かない。  
精子くん …そっか。

精コちゃん、降りる。間。

精子くん 三人でも、ダメか。  
精コちゃん お兄ちゃん、これからどうしよう。  
精子くん うん、卵子ちゃんに届かないんじゃ、ボクら三日の命だもんね。

うつむく二人。

男 ごめん、ホントごめん！俺、もうしない、……たぶん、たぶんしないか  
ら、ごめん。

男、複雑な表情で土下座。

精子くん 大丈夫だよ、お父さん。三人でダメなら、もっと呼んでくればいい  
んだ。だってボクら、兄弟なら何億でもいるんだから、ね、みんな。

スクリーンに、たくさんの精子くんと精コちゃん映る。

スクリーンのみんな　今から行くよー！

男　ダメ！来ちゃダメ！ホント、壊れちゃうから、壊れちゃうからー！

暗転。

男　ああれええん！（エコーかかる）

明転。舞台中央に、一人で放心したように寝ている男。誰もいない。

男　（起き上がり）精子、クン？精コチャン？

間。スクリーンに、精子クンのアップ。

精子クン　お父さーん、届いたよ！

カメラ引くと、たくさんの精子クン精コチャンが組み体操をして、太陽に届いてるちゃちいCG合成映像。

精子クン　わーい、なんか燃えるー！

男　精子クン！

暗転。すぐ明転。男、舞台中央に立ち、隣に精子クンと精コチャンが立っている。

男　さ、これで今日の保健体育の時間は終了です。みんなも、精子クン精コチャンを大切に、丈夫な赤ちゃんを産むんだよ、それでは、精子クン精コチャンにお礼を言おうね。どうもありがとうございました！

間。

男　ん？恥ずかしいのかな？ありがとうございました、だよ。どうぞ、大きな声で？せーの、ありがとうございました！

間。

男　精子クン精コチャン、怒って帰っちゃうよ、いいの、丈夫な赤ちゃん産めないぞ？  
じゃ、せーの、ありがとうございました！

チビッコの大声で「どうもありがとうございました！」の音声かかる。

男 はいよくできました。(観客に向かって)ん、誰か変な声が聞こえたよ？  
丈夫な赤ちゃんを生みたかったのかな？それではまた、どうも  
ありがとう！

みんなでお辞儀。暗転。

ナレーター (真面目な声で) 赤ちゃんを、大切にしましょう。  
ちびっ子の大声 えーしー！

終わり。